



Vamos juntos



No.5

文責 小坂佑騎

おめでとう！ありがとう！卒業生！！

先日 12 月 14 日（土）は第一アリアンサ日本語学校の卒業式・終業式でした。日本とは違う時期の卒業式ということで少し新鮮に感じます。今年の卒業生は 3 名です。今年出会ったばかりの生徒たちですが、日々の授業や行事など、とても楽しい時間を過ごしてきた生徒たちの卒業は、嬉しいとともに少し寂しいです。卒業式では卒業生 3 名、在校生代表の高校生 3 名が日本語で書いた挨拶を発表しました。感謝の気持ちを表すとともに、所々に笑いを入れた発表で、卒業式に来てくださった保護者の方や地域の方もうなずき、笑いながら発表を聞いていました。

卒業生を含め、日本語学校には 6 名の高校生がいます。彼らは学校や地域の行事でもいろいろ気を利かせて仕事をし、後輩たちを引っ張ってくれる頼もしい存在です。今回の卒業式でも、私が準備のために会場の掃除をしていると、ほうきをもってきて掃除を手伝ってくれたり、卒業生自ら机やイスを並べたりと、気を利かせて動いてくれます。日本では当たり前のことかもしれませんが、ブラジルでは学校で掃除をする習慣がないので、こうやって自分から進んで掃除を手伝うことは、日系社会ならではの光景のようです。こういう姿を見ると、改めて日本文化の良さを感じます。海外の地に来て、日本の良さを見つめ直すきっかけをいただいています。



参加者全員で記念撮影



卒業生挨拶



在校生挨拶



卒業式後の夕食会

クリスマス、新年の準備！！

弓場農場では、毎年12月に餅つきをしているそうです。先日そのお手伝いに行ってきました。臼と杵を使った、昔ながらの餅つきです。弓場農場の人たちや弓場に滞在している旅行者の若者たちも一緒に盛り上がりました。餅つきは、見た目は簡単そうでも結構大変で、交代で合計80キロのお餅をつきました。12月30日にもさらに120キロの餅をつくそうです。

また、弓場農場ではユババレエのNatal公演（Natalはポルトガル語でクリスマス）を毎年行っているようで、12月25日には200人を超える人が公演を見に弓場農場を訪れるそうです。そのため、弓場農場では、連日歌の練習や管弦楽の演奏練習、バレエの練習や大道具、小道具の作成と大忙し。私は日本語学校が夏休みに入ったので、弓場農場のお手伝いをしています。最近ではデコポンの剪定や畑の草刈りなど人手が足りない農場の方の仕事をしています。剪定は初めてなので、インターネットなどでいろいろ勉強しながら仕事をしています。



おまけ

12月に入って、やっと、まとまった雨が降りました。それまでほとんど雨が降らず、ため池などの水もだいぶ減り、乾燥がひどかったのですが、ひとまずこれで農家の皆さんもほっとしています。そんな中、先日弓場農場へ向かうためにいつもの道を歩いていると、なんと道が崩れている！！アリアンサは入植から95年たった今でも、少しわき道に入ると赤土の道が多数あります。車が一台やっと通れるだけになってしまいました。

